

みなさんこんにちは！男女共同参画室です！
今回は、男女共同参画情報発信 第3回をお届けします！

Vol. 3



第3回のテーマは「**ともに生きる、ともに活かす**」です。

男女共同参画室では、男女共同参画の視点を取り入れた講座やフォーラムを開催しています。
今回は、市の男女共同参画週間（2月7～13日）中に行行ったフォーラムと男性向けに行った講座についてお届けします。

2月9日（土）とねミドリ館にて

男女共同参画フォーラム

パートナーシップ in 古河 2013 ～ともに手をたずさえて ハート to ハート～

私たちは多くの方々と連携することによって、男女共同参画を知っていただき、喜びも責任も分かち合いながらともに生き、個人の能力や個性をともに活かす、そんな活動を一步ずつ続け広めていきます。—実行委員会—

◆オープニングアトラクション

～古河市民ネットワークゆめこらぼ

登録団体の子ども達からの踊り～

▶ 「わくわく舞踊教室」

（財）伝統文化活性化国民協会認定事業として、幼稚園児から児童までの50人が日本舞踊や地域の踊りを習い、日本のこころや礼儀作法を学び、活動しています。



▶ 「キッズエアロビクスクラブ」

幼稚園児や児童が、週末の練習に参加し、毎年市内のお祭りには、保護者がデザインした手作りの衣装を着て発表しています。



◆フォトコンテスト表彰式

11月から12月にかけて市内6カ所で開催した「古河女・古河男写真展」では、2,887票の来場者投票をいただき、最高得票数と次点の作品を表彰しました。

「いきいきと働く女性部門」28作品から

★最高得票賞 216票

♪ソネム「古河署の恩田すみれ」さん

「子育てする男性部門」18作品から

★最高得票賞 246票 菅原 愛 さん

◆講演

講師 福島県飯舘村村長 菅野典雄氏

演題 「お金の世界」から「いのちの世界」へ

○人生は「片道切符」

私たちの毎日は二度とない。名誉のあるなし、性別に関係なく、毎日毎日が二度とない人生の積み重ねだということをもう一度胸に刻めば、もう少し違う毎日が過ごせるのではないのでしょうか。

○夫婦は「共通体験」

今まで日本は効率一辺倒で、これは男の仕事、これは女の仕事という発想ですと来ました。「明るい村づくり、暗い家庭づくり」をしている人が結構世の中には多いです。お互いに助け合い、補い合い、それを活かし合い、高め合う関係になっていく必要があると思います。共通体験を積むという事です。

○発想は「足し算から引き算」へ

大量生産、大量消費、大量廃棄で日本の経済は回ってきました。成長を望み、エネルギーが必要となり、原発を作り、そして事故になりました。何でも足し算的な発想ではなく、引き算的な発想も必要ではないのでしょうか。スペインの言葉には「多く持っていない人が貧しいのではなく、多く欲しがる人が貧しいのだ」とあります。（講話より一部抜粋）



Men's カフェ講座 ～ホワイトデーのおもてなし～

- ◆講師 カフェオーナー 須藤 高揚氏
- ◆内容 ・本格ペーパードリップの実践
・お手軽焼き菓子作り

家庭生活における男女共同参画の促進として、ご夫婦やカップル、男性のみでも楽しめる講座を開催。

市内在住・在勤の夫婦や親子、单身男性の24人(男性14・女性10)が参加し、クッキーやスコーン作りとプロのコーヒーの淹れ方に挑戦しました。

お菓子作り初挑戦の男性の姿もみられましたが、男性同士助け合いながらクッキーを仕上げたり、自分で淹れたコーヒーとプロの味とを飲み比べたりしました。

↓クッキーはフォークで形を整えています！



◆参加者の声

- ◇ 普段は作らない菓子作りを体験でき良かった。(40代・男性)
- ◇ 思ったより簡単にクッキーが焼けた。もう少し甘くてもいいかな?(60代・男性)
- ◇ 意外に体力がいるものだと実感した。(40代・男性)
- ◇ 実際にプロの方が淹れるところを見せていただけて良かった。(40代・女性)
- ◇ 楽しく為になる時間を過ごすことができました。(50代・男性)
- ◇ こういう企画があれば今後も参加してみたい。(40代・男性)

↓講師の説明に思わずパチリ!



男女共同参画室では、事業所・団体等と連携した講座・セミナーを開催していきます。皆様の「こんな講座があったらいいな!」の声をお待ちしております。

募集中

男女共同参画古河市民ネットワークゆめこらぼ

- 目的：市内において活動する団体及び個人が協力・連携し、男女共同参画を推進します。
- 活動：情報交換をしつつ、普及啓発に向けたPRやフォーラム開催時の自主的な取り組みを目指します。
- 申込：申込用紙に必要事項を記入の上、男女共同参画室へ提出。(FAX・メール可)
- 登録状況：団体25、個人4人(H25.3.7現在)

図書紹介

『災害支援に女性の視点を!』

竹信三恵子、赤石千衣子編、岩波ブックレットNo.852 2012年 588円

被災後の混乱で「女性たちの安全・安心のため」という視点が欠けたり軽視されることを見越して、情報収集、分析、それらを活かした女性や弱者のための支援活動を行った。

『震災のときあったらいいもの手帳』

チーム住まいと暮らし監修・執筆 住まいの学校 2012年 777円

阪神・淡路大震災を経験した主婦たちが、暮らしの中のお役立ち情報について3.11以降にツイッターで発信した内容をまとめたもの。

